

進化宣言!  
電撃文庫  
FIGHTING  
フェア

電撃文庫の大人気ファンタジー  
『マグダラで眠れ』の  
書き下ろし掌編!!

原作コンビと  
スピンオフ  
コミカライズ  
作者が夢コラボ★

# マグダラで眠れ

MAGDALA  
MAY YOUR SOUL REST IN

～純度とその判別方法～

ISUNA HASEKURA  
支倉凍砂

TETSUHIRO NABESHIMA  
扉イラスト 鍋島テツヒロ

SUIREN MATSUKAZE  
挿絵 松風水蓮

# A 電撃文庫『マグダラで眠れ』 An outlook on the world

魅力的な世界観に迫る

ファンタジーの名手・支倉凍砂が紡ぎ出す、錬金術師と修道女のボーイ・ミーツ・ガールストーリー『マグダラで眠れ』。書き下ろし小説を読む前に、作品のストーリーと世界観をご紹介します!! これを見れば、『マグダラで眠れ』がさらに楽しめちゃう☆

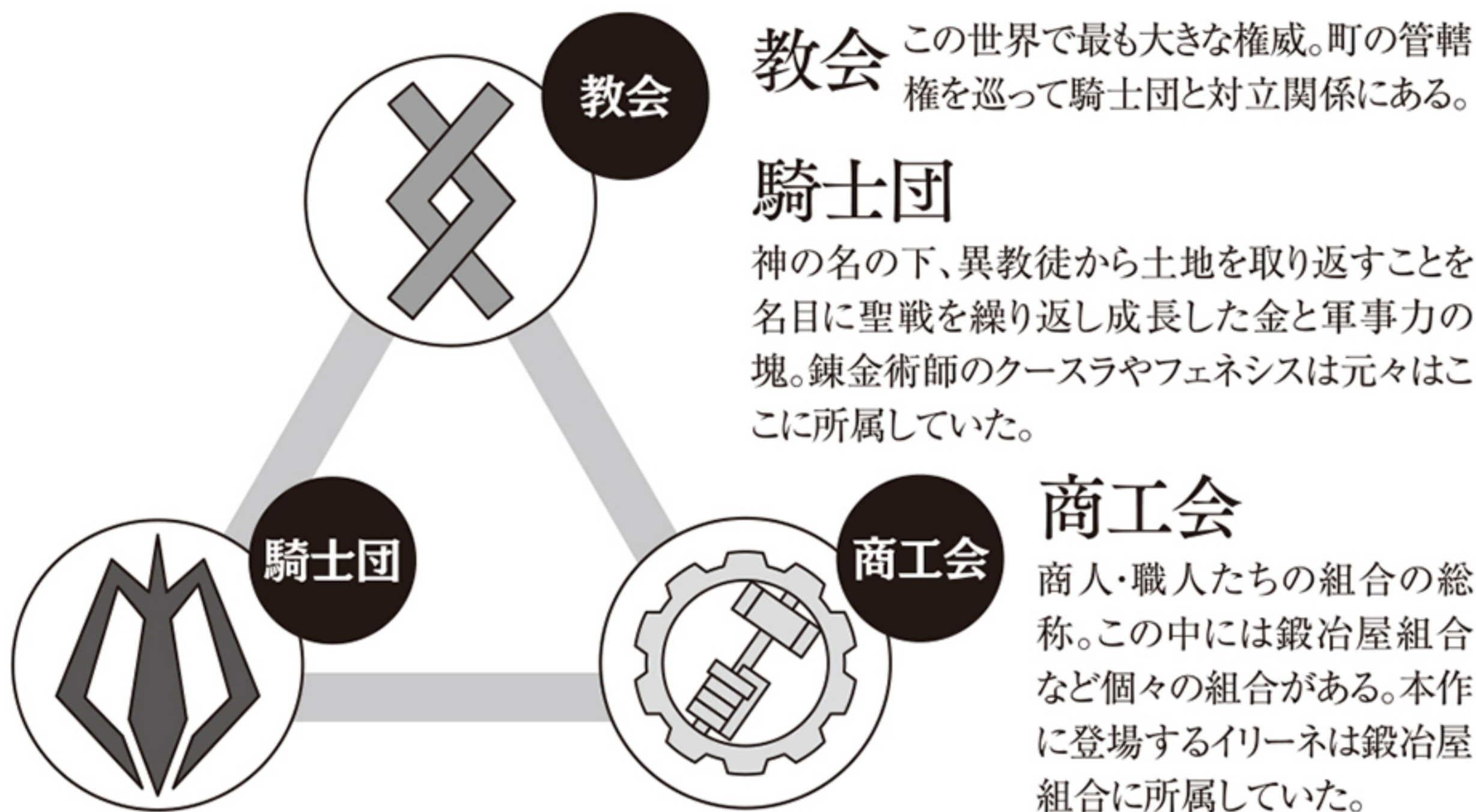
## Story

### 呪われた修道女と、忌み嫌われる錬金術師が出会い——!?

神の名の下に聖戦が起こっている時代。主人公・錬金術師のコースラは、神を冒涇した罪で投獄されていたが、権力者と密約を交わし釈放された。そして、戦争の最前線の町・グルベッティの工房で、錬金術師として働くことに。そんな彼を工房で待ち構えていたのは、修道女・フェネシス。彼女は、コースラを監視するために工房で生活を共にすると言うが——。冷酷な錬金術師と禁忌の秘密を持つ修道女が出会い、互いの人生を大きく変えていく!!

## World 3大勢力が拮抗する世界

『マグダラで眠れ』の世界で重要なのは、下図の勢力図。「教会」「騎士団」「商工会」の3大権威が互いに対立しあうことによって、均衡を保っている。



## 錬金術師の工房とは?

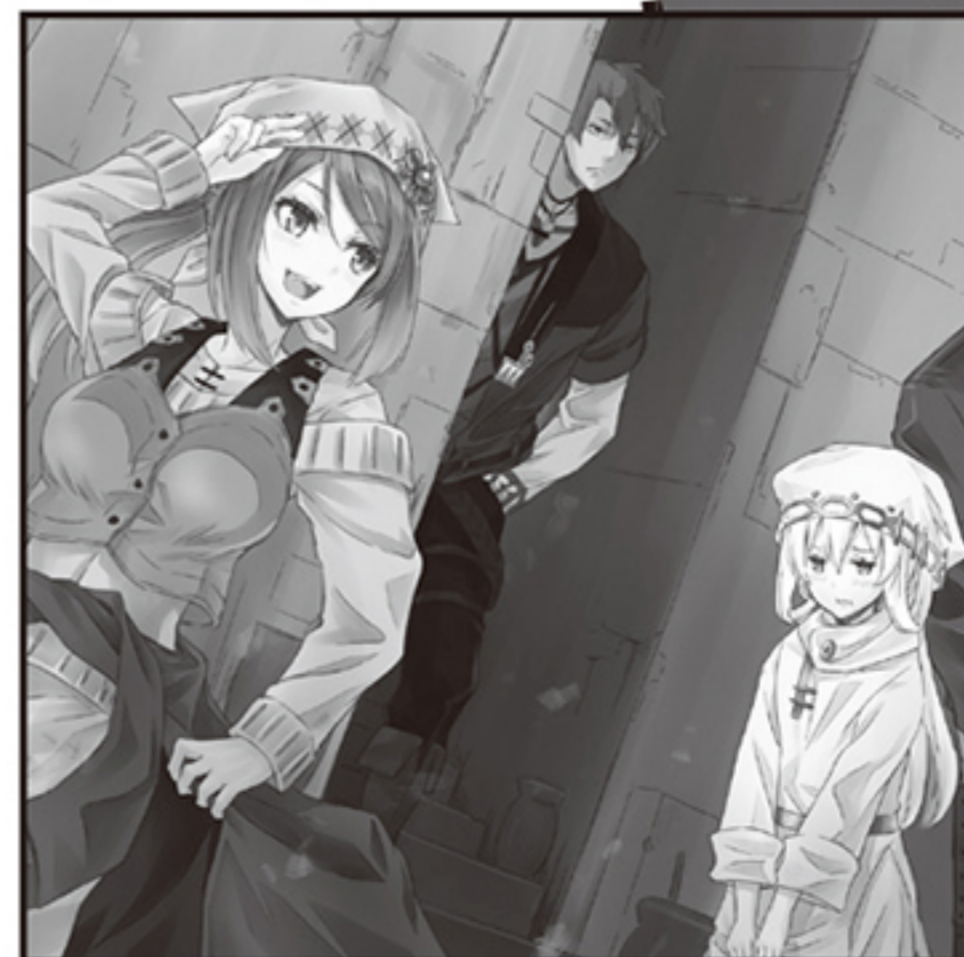
### 錬金術師の工房内部と工房の女の子たち——。

科学的知識などを駆使して鉄の製錬など様々なことをする錬金術師。ここでは謎の多い錬金術師の工房と、工房にいる女の子ふたりに注目したぞ!!



An alchemist workshop 工房 毒から鉱石まで何でもあり!?

大きな炉・冶金作業の道具・鉱物・金属・様々な動物の骨・劇薬の入った瓶など種類は多岐に渡る。扱いを間違えると、自身に危害が及ぶものもたくさんあり、多くの知識を持っていなければとても危険な場所である。町の人々はほとんど近づかない。



Girls -フェネシスとイリーネ- 怪しい錬金術師の元に女の子が——!?

『マグダラで眠れ』では、女の子ふたりが錬金術師・コースラと行動を共にしている。イラストの一番左のイリーネとその右端のフェネシスだ。イリーネは、お姉さん気質のしっかり者。フェネシスは、か弱く見えて芯の強さを持っている『マグダラで眠れ』のヒロイン。タイプの違うふたりだがとても仲がいい。

白き修道女に手を差し伸べたのは、  
恋人を亡くした過去を持つ、  
リアリストな錬金術師。

イラスト/鍋島アツヒロ

電撃文庫 FIGHTING フェア 日常のガールズトークを書き下ろし☆

次のページの『マグダラで眠れ~純度とその判別方法~』へGO!!

# マダラで眠れ

～純度とその判別方法～

かん、こん、きん、と良い音がする。刀を作るわけでもない錬金術師の工房では、少し珍しいことだ。

とはいえ、そんな工房に戻ってきたフェネシスもまた、こういう場所ではなかなか見かけない見た目だろう。真っ白な髪の毛と幼さの残る風貌は、どちらかというとなら修道女のほうがふさわしいからだ。

そして、フェネシスが工房の扉を開けると、ここにもまた女がいた。こちらはフェネシスよりももう少し年上の、赤毛で快活そうな娘だった。そのイリーネが、鉄塊を並べて金槌で叩いている。時折首をひねり、横一列に並べられた鉄塊の順番を入れ替えていた。

「演奏でもするのですか？」

フェネシスは、興味深げに問いかけた。

「ん？」

「楽器みたいですよ」

職人たちは同じ仲間で作りを、組合ごとに守護聖人や職人の踊り、歌がある。

フェネシスは、その演奏かと思ったのだ。

「ああ、違うわよ。鉄の性質を見るために、

炉の中で製錬する時間を変えて鉄塊を作ってたんだけど、それぞれを混ぜちゃってさ。叩

いて音を聞いて、分類してたの」

喋りながらも、かん、こん、と叩き、順番を一つか二つ入れ替えている。見た目はほとんど変わらず、音も実際のところ違うといってもほんのわずかなものだった。フェネシスは人とは違う特別な耳を持っているために聞き分けられたが、多分、普通の人ではまず聞き分けられないだろう。

フェネシスが素直にそのことを言うと、イリーネは少しだけ得意気だったが、こうも言った。

「まあ、実際は音だけじゃなくて、叩いた感触とかかな。固いのと柔らかいのとじゃ、結構違うしね」

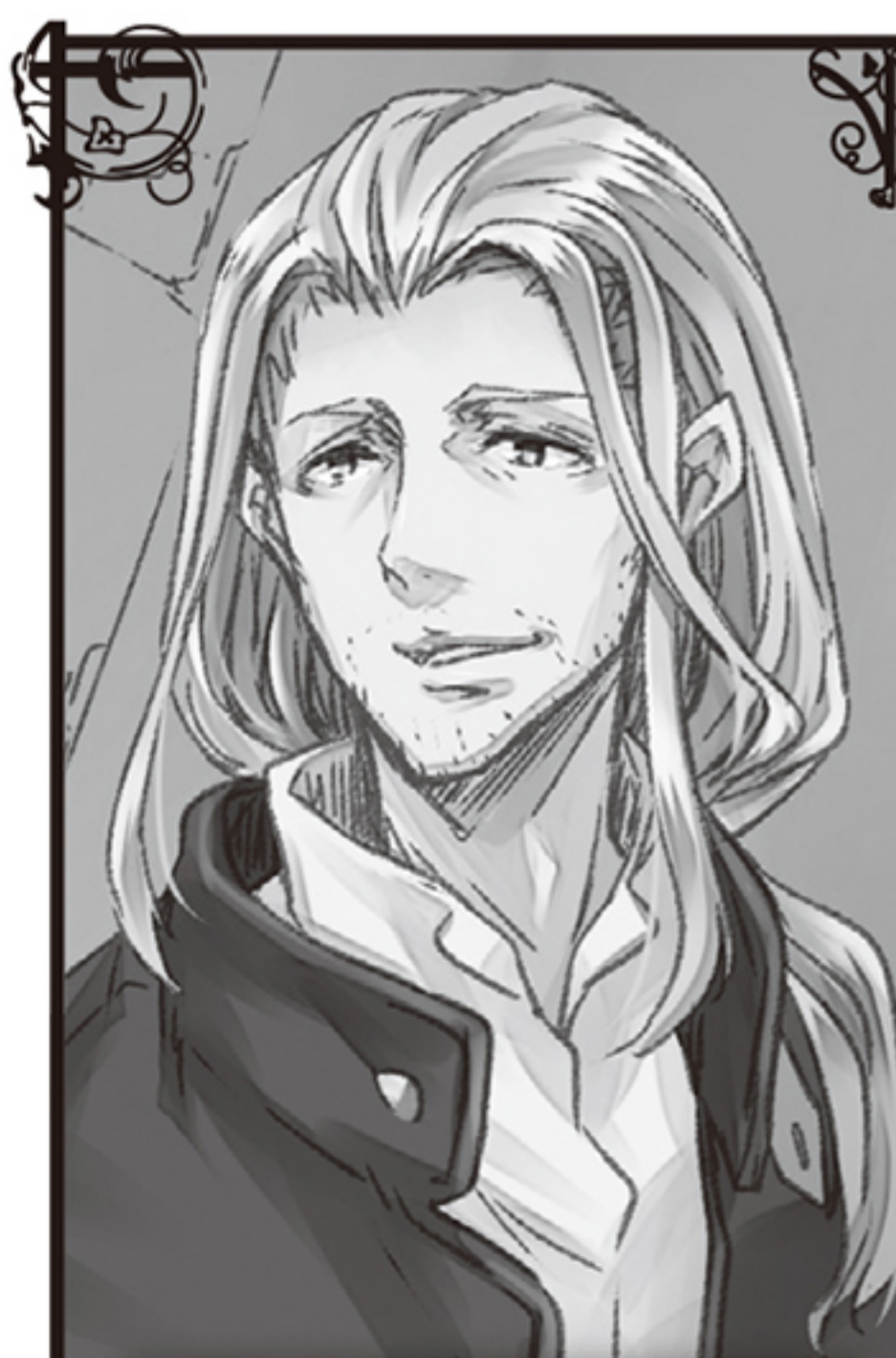
そう言われ、フェネシスも金槌で叩いてみたが、感触は音以上にわからない。これは鍛冶職人として散々鉄を叩いてきた人間のみが身に着けられる技能だろう。

「職人さんの技術は、すごいです……」

「すごい、のかなあ。単純に好きでしょうがないからね。毎日触れているうちにいつの間にか、て感じかなあ」

こともなげに言う姿は、錬金術師としては、まだ半人前の自覚があるフェネシスとしては、

## 登場人物紹介



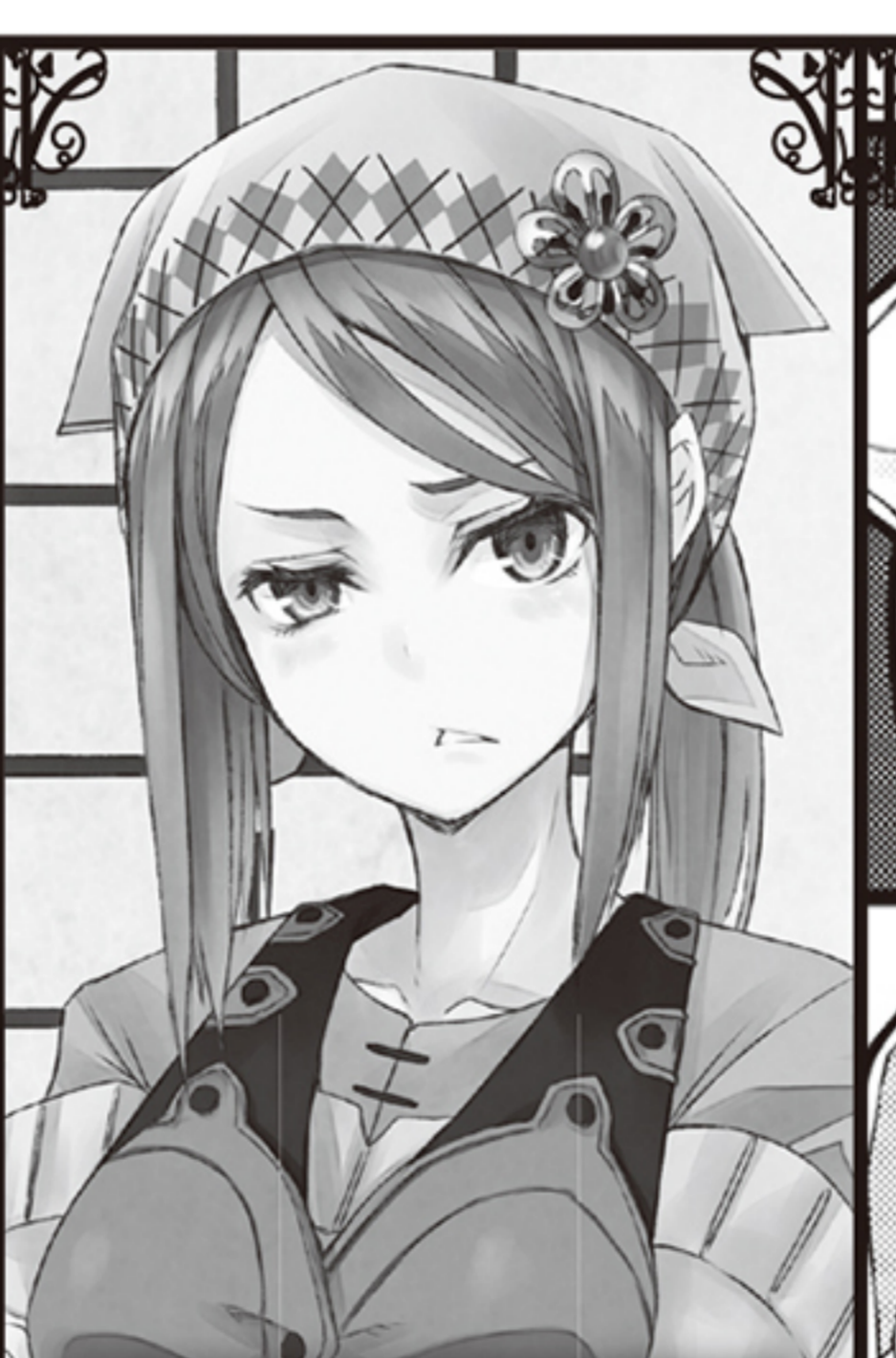
### ウェランド

クースラと同じ工房で修業した昔馴染みの錬金術師。のんびりとした口調が特徴で腕は確かだが、かなりの女っつらし。



### クースラ

「利子」という名を持つ錬金術師。昼も夜もなく目的地へ向かう性質から、別名“眠らない錬金術師”と呼ばれている。



### イリーネ・ブルナー

鍛冶職人の少女。グルベッティ鍛冶屋組合を束ねる組合長代理をしていた。フェネシスの大事な友人であり、仲間。



### ウル・フェネシス

クースラの監視のために派遣された獣耳の修道女。現在はクースラの手で騎士団の聖歌隊から連れ出され、共に旅をしている。

眩しいものだった。

「私からすると、両替商の奴らのほうがすごいと思うわ」

「両替商？」

「そ。あいつら、貨幣を噛んで、それで純度を言い当てるのよ」

「えっ」

「あからさまな贋金なんかはそりゃあ私でもわかるけど」

と、言うのでフェネシスは戸惑ってしまふ。「ウルちゃんにも簡単なものならできるわよ。金と真鍮くらいわかるでしょ？」

真鍮は、金と見た目がそっくりの、金色の金属だ。銅と亜鉛でできていて、価格は金とは比べ物にならないくらい安い。

「真鍮は、匂いがありますから……」

「こそ。あの独特のね。でも、それも真鍮のことを知らない人からしたら、匂いでわかるなんて思わないじゃない。銅にも独特の酸っぱさみたいな味があるし、両替商の連中の技術も、それらの知識のすごく精度の高いやつってことなんでしょ？……銀貨や金貨の噛み心地やら味やらで、純度なんかかわらないわよねえ」

イリーネは金槌をテーブルに置き、革手袋を脱いで、戸棚に歩み寄る。

そこには数種類の金属に混じり、何枚か貨幣が置いてあり、おもむろにそのうちの一枚を手に取って、軽く噛んでいた。

「でも、あれよね。噛んで純度がわかるくらいお金が好きっていうとちよつとあれな感じだけど、技術としては格好いいわ」

イリーネは職人としてとても優秀で、なによりもそのことを優先させている。

仮に教会からは守銭奴と非難されるような両替商たちでも、その技能についてはとても公平なのだろう。

「私も、そういう技術が身に着く日がくるといいのですが」

フェネシスがそう言うと、ちよつど外から足音が聞こえてきた。ほどなく扉が開かれ、二人の男が入ってくる。どちらもこの工房で作業をする錬金術師だ。

「だからそうじゃないって言ってるだろおとお」

「黙れ。試金石で試してみればわかる」  
長髪はややだらしない格好のウエランドが、いつもの大げさな身振りでなにかを訴えているのを、クースラは無表情で受け流している。

金の純度を調べる試金石と言っているの、なにか得体のしれない金属を手に入れるかしたのだろう、とフェネシスは当たりをつける。「おかえりなさいませ」

フェネシスがクースラに向けて笑顔で言うと、クースラは返事もせず、手に箱を持ったまま工房の隣にある部屋に行ってしまう。フェネシスのことはほんの少し、ちらりと見ただけだった。

一方の、クースラに追いつがるようにしていたウエランドは、隣の部屋に入り際にイリーネとフェネシスを振り向いて、笑顔で手を振っていた。

「クースラの奴、本当、いつつも愛想がないわね。意地っ張りとかなんというか……」  
イリーネはそう言うことから、ふとなにかに気が付いたような顔をした。

「あ、ウルちゃんにもあるじゃない。純度を見極められるような方法が」

「え？」  
聞き返すフェネシスに、イリーネはにやりと笑っていた。  
「あの二人の手とか指とかに、ちよつと噛み